

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570502799		
法人名	社会福祉法人 中央会		
事業所名	安心サポート本荘		
所在地	秋田県由利本荘市水林281-4		
自己評価作成日	令和3年11月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和3年12月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活の中で孤立感を味わうことなく過ごしてもらえよう、寄り添ったケアを心掛けている。コロナ禍で面会が制限されたり外出を控える日々となったが、ホーム内で季節感を感じながら楽しんでもらえるよう行事を企画している。身体機能の低下予防のため毎日体操の時間を設け、入居者と職員と一緒に体を動かす機会を設けている。また個別の状態に合わせた運動や作業を行ってもらっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は国道から少し離れ、緑に囲まれた所にあり、同法人の特養・ショートステイ・デイサービスなどが隣接し、様々な面で連携されています。利用者の平均年齢が約90歳、要介護度3以上が4人となり、受診回数が少しずつ多くなってきていますが、管理者と全職員が一丸となり笑顔で安心して毎日を過ごせるよう、一人ひとりの行動・言動を把握しながら支援されています。コロナ禍の中、利用者の様子を写真を通して見ていただきたいと、毎月のお便りと一緒に送っており、面会は出来ないが写真で元気な顔を見られて安心したと喜ばれています。コロナの感染症が全国的に減少してきている現状に伴い、法人として面会時間、人数など制限しながら1月頃から面会可能にする意向です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	心を大切にすべてを受容し求めに応えるの理念を共有し、一人ひとりその方らしい生活を送ってもらえるよう心掛け実践している。	事業所の運営理念を基に、笑顔で安心して過ごせるよう、年度初めに話し合い、日々確認しながら取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で苑の納涼祭や近隣町内の子供会のお神輿が行われなくなってしまったが、以前は行事を通して地域の方々や園児との交流会を図っていた。	コロナ禍の中で地域との関わりが厳しい状況ですが、毎月理容業者の受け入れなど可能な限り交流できるようにしています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	コロナ禍で現在は運営推進会議は書類での報告という形をとっているが、以前は運営推進会議の際に地域の方々へ提供できることや役立てることはないか話し合い、必要に応じて情報提供を行っていた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で現在は運営推進会議は書類での報告という形をとっている。状況が落ち着いたら以前のように意見交換を行い、サービスの向上に活かしていきたい。	書面での運営推進会議を実施、事業所の事業報告などに対して、意見や要望などがあつたときは運営に反映できるようにしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現在は直接的な情報交換は行っていないが、グループホーム連絡協議会で各施設の空き情報を取りまとめ共有するようになっている。	対象利用者の福祉事務所への報告などは書面で行いながら協力関係を、築くようになっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては全職員が理解し、見守りを徹底している。夜間ややむを得ない時以外は玄関の施錠も行っていない。	定期的に確認しながら拘束のないケアに取り組んでいます。拘束するためのリスクについても家族に説明し理解を得ています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、いつでも確認できるようにしている。研修を通して虐待があつてはならないものと全職員が理解している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在権利擁護制度を利用している方はいないが、必要に応じて研修に参加し制度を学ぶことができるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行うようにしている。また不安や疑問に思うことはないか尋ね、ご理解をいただいた上で同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在面会を制限しているため支払いの際に不安に感じていることはないか、意見や要望はないかを聞くよう会話する機会を設けている。県外にお住いのご家族とは電話や手紙を通して確認をとるようにしている。また意見があった場合は職員間で周知できるように努めている。	利用者からは日々の関わりの中から要望などがあれば検討し、反映できるようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日々の業務の中でも話し合いの機会を設け、運営に反映できるようにしている。	職員の気づきにより、運営に反映されている事例もあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホームの状況や実績を報告する機会を設けている。具体的な実績(手当など)については処遇に反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で研修へ参加する機会は減っているが、ホーム内で振り返りの研修を行う機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人のグループホームと情報交換を行っている。現在は休止しているが地域のGH連絡協議会で開催される研修や交流会に参加してネットワーク作りやサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	どのように過ごしたいか困っていることや不安に感じていることはないかを聞かせてもらい、安心して生活してもらえるよう情報を共有し対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在の状況から不安に感じていることなどを聞かせていただくと同時に、GHの説明も十分に行い理解を得ながらご家族の不安を少しでも軽減できるよう努め、また気軽に連絡や相談をして欲しいことも説明している。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に行えることは協力しながら取り組み、昔ながらのことは入居者から教わりながら生活している。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月近況報告の手紙を発送し、どのように過ごされているかをお伝えできるよう写真もお渡ししている。また支払いに来てくれた際には直接お話する機会を設け、現状を共有できるよう努めている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の現在は面会ができないが、電話や面会に来た際にはその場限りとならないよう次へ繋げられるような働きかけを心掛けている。	馴染みの方等との関わりが厳しい状況でも、毎月理容業者を受け入れており、これからも継続できるように取り組んでいます。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で入居者同士が互いに声を掛け合いながら過ごされている。また職員は間に入り会話することで孤立せずに過ごしてもらえるよう努めている。		
21		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院や状態の変化によりサービスの利用が終了する場合でも、今後も安心して生活できるように居宅のケアマネと連携を図り支援や相談に応じるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や意向を把握し、自ら訴えることができない方はご家族の意向を伺うなどし、安心した生活ができるよう情報を共有し対応に努めている。	職員と二人きりになったときに聞いたり(食べたいもの・衣服とか)しながら、本人本位に検討して取り組んでいます。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から得た情報や日々の会話の中から知り得た情報を共有しながら対応に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方を把握し、その方の得意とすることなどを無理なく続けてもらえるよう努め、その情報は共有するようにしている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の評価も反映させながら職員間でも意見を出し合い、ご本人やご家族の意見や要望を取り入れながら、一人ひとりが安心して生活できるような計画の作成を心掛けている。	カンファレンスでは活発に意見交換し、現状に即した介護計画が作成されています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりのその日の行動や状況、気付きなどを個別に記録し、情報を共有しながら介護計画に活かしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて各種機関との連携を図っている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者一人ひとりの以前からのかかりつけの医療機関を受診している。	受診には職員が付き添い、日常の状態を報告し、受診情報はパソコンやノートで共有、家族へは毎月のお便りや必要に応じて電話で報告するなど、適切に取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけの医療機関の主治医や看護師に相談するなどしている。		
30		○入院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの生活状況を病院側へ伝えるようにしている。また入院中の情報提供を求め、状態の把握ができるよう努めている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の意向を伺い、主治医に相談している。その上でグループホームではどこまでの対応ができるかを見極め、その方らしく過ごしてもらえるよう今後の方針を決定している。	看取りはしていないものの、家族の要望により関係者と連携しながら、一歩手前まで支援した事例もあります。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が救急救命の講習を定期的受講している。また緊急時のマニュアルを作成し、定期的を確認し合っている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間想定訓練を行っており、年に一度は消防立合いのもと訓練を行っている。コロナ禍前は地域の方(町内会長、防災担当者)に参加していただいていた。	訓練終了時には消防署員の講評、参加職員との意見交換、反省点な話し合い内容を記録し、防災意識の向上に繋げています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけや、ご本人らしく過ごしてもらえるような対応に努めている。また、個人情報の取扱いについても十分に配慮している。	特にトイレ誘導時には羞恥心や不安への配慮した言葉かけをし、日常の会話では語調に気をつけながら取り組んでいます。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	要望に沿った対応を心掛けている。本人ができることに関しては、時間がかかっても自分のペースで行えるよう支援している。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合やペースを押し付けるのではなく、一人ひとりのペースに合わせた対応を心掛けている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望や好みを尊重している。散髪に関しては毎月床屋が来苑し、カットや顔剃りを行ってくれている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備は難しい面もあるが、食器拭きやテーブル拭き、おしぼりの準備を手伝ってもらっている。季節を感じてもらえるよう、旬の食材を取り入れたり誕生日には希望を取り入れた献立作りをしている。	全介助・部分介助・塩分制限など一人ひとりに合わせた支援が実施されています。外食も厳しい状況であり、お好み焼きやパンバイキング・様々なおにぎりにもあり、目でも楽しめるよう工夫されています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事制限のある方に関しては病院や併設特養の管理栄養士に栄養指導を受けたり、カロリー計算を行ってもらい、栄養バランスが取れた献立になるよう配慮している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後や就寝前のうがい、歯磨き、入れ歯の洗浄など援助しながら行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、定期的 にトイレ誘導や声掛け、オムツ交換を行って いる。	失禁の多い利用者には専門医に相談した り、すこしでもトイレで排泄できるように、自立 に向けた支援が実施されています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を献立に取り入れたり、元々便秘傾向にある方は便秘薬を調整し服用していただいている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調を考慮しながら対応している。	全介助の方でも檜の浴槽につかっています。 全員週2回は入浴出来るよう取り組んでいます。 冬至前後にはゆず湯も実施して楽しまれています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない方には寄り添い、必要に応じて主治医へ相談している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬や飲み忘れがないよう、日付を記入し 毎食後ごとに一人ひとり手渡したり、介助にて服薬確認を行っている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意不得意とすることを把握し、できることを無理のないように生活の中に取り入れ行ってもらっている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出を控えていたこともあり、通院時にお花見シーズンは桜が綺麗に咲く公園を通り帰苑したり、外でのお茶会や散歩を行い季節感を感じてもらえるようにしている。	天気の良い日には、事業所周辺を散歩し、出来るだけ外気に触れる機会をつくっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談の上、自己管理のできる方や手元にお金がないと落ち着かない方は金額を決め(少額)所持してもらっている。また買い物の機械がある時は、できる限り自分で支払いができるよう支援している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	届いた手紙には職員が手助けしながら返事を書いたり、電話で会話できるよう支援している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然光を取り入れながら明るさに配慮すると共に、日が高い時間帯や日差しの強い夏場はすだれやロールカーテンで調整している。季節感を感じてもらえるよう、季節毎の壁画や造花、季節の生花を飾り、居心地よく過ごしてもらえるよう工夫している。	事業所内の手すりや共用箇所の消毒は以前から実施されており、コロナウイルスを外部から持ち込まないよう、特に職員は基本的な予防を徹底しています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの食堂や玄関にはソファを置き、自由にくつろげるよう配慮している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	こだわりや使い慣れた家具や物(家族の写真など)がある場合は入居時に持参してもらっている。家具の配置も相談しながら行っている。また居室を間違ってしまう方への対応としては、入り口に目印となるものをぶら下げたり貼ったりしている。	全居室に加湿器が設置、床暖房であり定期的に換気、居室内も掃除が行き届いており、気持ちよく過ごせるようになっています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレなどは迷わず分かるよう目印を付けるなど工夫し、廊下やトイレ、風呂場には手すりを取り付け、一人ひとりが安全に暮らせるように配慮している。		